

院長ごあいさつ



地方独立行政法人奈良県立病院機構
奈良県西和医療センター院長

土肥 直文

極寒の季節を迎えています。地域の皆さまにおかれましては、インフルエンザやコロナにも負けず元気にお過ごしでしょうか。ここにファミリー2月号をお届け致します。今号は「大腸がん特集号」と題し、院内の様々な職種のスタッフが、テーマに沿って各々の業務の内容を皆さまに分かりやすいよう丁寧に解説してくれています。是非、手に取っていただき、持ち帰ってじっくり読んで頂ければと思います。

さて、昨年の奈良県知事の交代により、紆余曲折のありました当センターの移転・再整備のための建設候補地が、JR法隆寺駅の南側すぐの区域に決まりました。現在の病院建物は、耐震補強工事を施しましたが、それでも耐震性が脆弱であるため、皆さまの安全確保を考えると、一日も早い移転が必要です。それに向けて令和6年度から、新病院基本計画の策定作業に入ります。そこで、「新・西和医療センター」をどのような病院にするかを細かく決めていくこととなります。ただし、今は高齢化が急速に進んでいる時代であり、且つこの西和地域は子育て世代の移住を積極的に進めている地域でもあります。このような背景を踏まえると、どのような病院にすべきかについては様々な議論があることも事実です。地域の住民の皆さまと医療機関からのご要望の一つ一つに真摯に向き合いたいと考えております。現段階では、民間病院が今後、充分に対応できないと予測される医療提供を公的病院が担うことが必要になるという考えに基づいて基本構想が作られております。すなわちそれは①小児救急を含む救急医療 ②脳卒中・循環器病、がん、運動器疾患等における高度な専門的医療 ③災害医療 ④いずれ襲ってくるであろう新たな新興感染症パンデミックに対する医療などです。周産期医療に関しては、現段階では何も決まっておらず、これからの課題となります。院長としましては、新病院開院を7年後に控えた現在も、当センターの医療機能をより一層向上させていくことが重要であると考えております。当センターの在り方について、皆さまからご意見がありましたら、当センターに対してだけでなく、奈良県立病院機構本部もしくは県の医療政策部病院マネジメント課にも意見をお寄せ下さい。一人でも多くの地域住民の皆さまの信頼を得られるような病院を目指したいと考えております。今後も新病院についてのニュースがあれば、都度このファミリーでもお伝えしたいと思います。